

石垣崩落復旧整備事業の今

各方向から状況写真を撮りました。三の丸での工事が終了し、帯曲輪石垣へ1.5mほど掘り下げたところです。工事用のステージも広くなり、重機が複数投入できるようになりました。これまでの遅れを取り戻すため、機械、作業員を増やして、頑張ります。



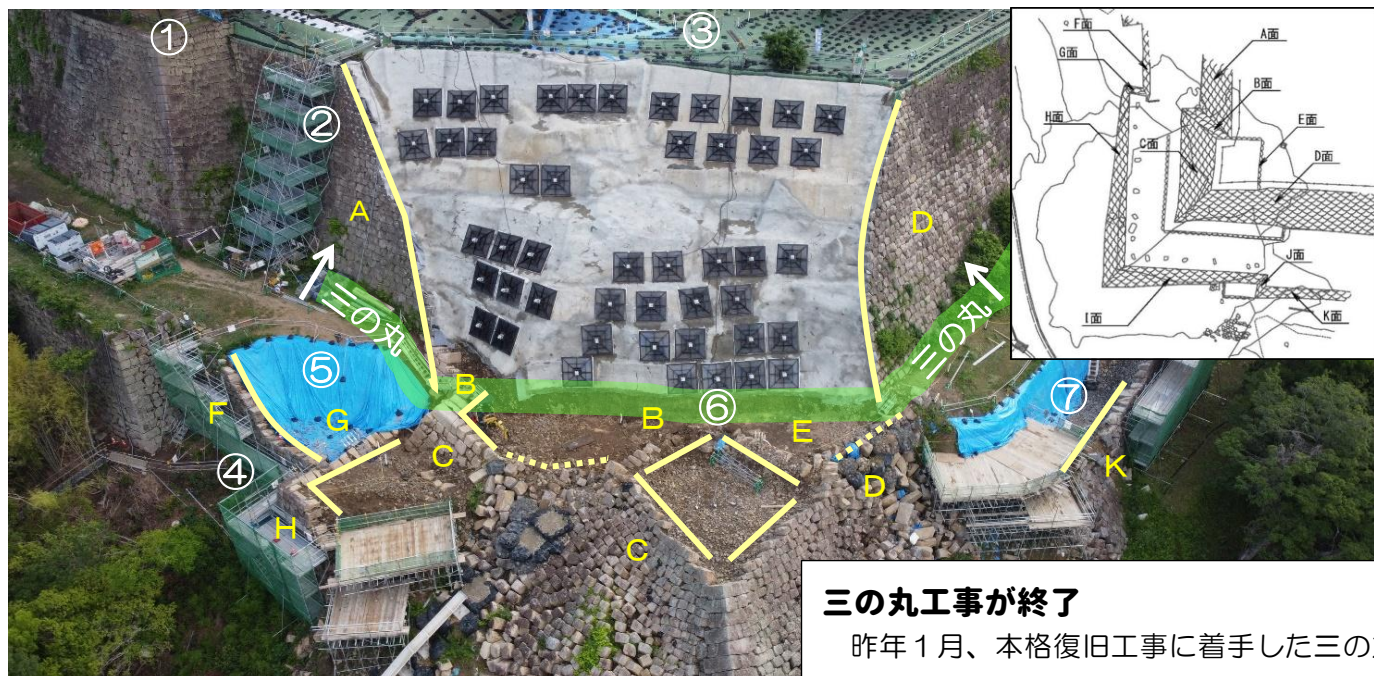
【①三の丸A面】



【②三の丸のグラウンドアンカー】



【③えぼし石垣上面】



三の丸工事が終了

昨年1月、本格復旧工事に着手した三の丸石垣の解体、斜面安定等工事が5月に終了しました。埋没石垣1と2をできる限り原位置に残しながら、合計47本のグラウンドアンカーが斜面の安全を保っています。



【④帯曲輪F面】



【⑤帯曲輪G面】

G面は解体によって石垣が三の丸方向に延びていくことがわかりました。

平成16年度の発掘調査で確認された、櫓台の嵩上げ改修痕がそのままの状態出てきました。



【⑥三の丸E面】



【⑦帯曲輪K面】

K面の石垣は平成6年に解体修理されており、地中に埋没石垣があることがわかっています。



三の丸石垣の基礎部分

三の丸の掘削が進むにつれ、石垣の破損が予想以上に深い位置まで及んでいることがわかりました。地中の基礎部は前面に根固め石垣などがあり、崩落時の衝撃から逃げる場所がなく、出角部に積まれた石のほとんどが割れていました。



大きな角石に無数のクラック（亀裂）が入り、崩落の力の大きさを改めて感じました。

今後、安定した基礎として使用できる石材（根石）が確認できるまで、記録を取りながら掘り進め、復旧検討に活かします。

文化財的な発見

三の丸B面、C面の出角部となる坤櫓跡隅角部の石垣が修理されていることがわかりました。

点線の上部和下部で石垣の色に違いが見られることから、下が築城当初の石垣、上が積み直して修理された石垣であると考えられます。

また、上に置く石を固定するために、角石の出角部を鉤（かぎ）形にしていますが、このような加工痕のある石垣の検出は丸亀城では初めてです。



【B面側】



【C面側】

新☆重量チャンピオン!!

解体中の三の丸石垣から4.2tの石が出てきました。残念ながら2つに割れていましたが、石の大きさにも、割れっぴりにも圧倒されます。



鼓の刻印!?

解体中の石垣から新しい刻印が見つかりました。これまでに見つかった刻印は、「〇三つ」と「田」の2種類でしたが、今回見つかった刻印は鼓の形です。刻印は大名の石切丁場（石を採取した場所）を示すもので、家紋を記す場合や、石を切り出した組を記します。この刻印の詳細は不明ですが、旧丸亀市の市章によく似ています。

「立鼓（りゅうご）」という京極家の馬印で、のちに船印となったものが市章として受け継がれました。



【山北八幡神社所蔵】



石垣解体で出てきた3つ目の刻印です。

新市長、市議会が現場を視察

松永新市長と市議会議員の皆さんが、復旧工事現場を視察しました。新たにわかった複雑な石垣の基礎部や、石の割れ等の状況を文化財と土木の視点から説明しました。



ダブルアームで奮闘中!

5月から120tクレーンを追加投入し、解体作業のスピード化を進めています。今年は例年より早い梅雨入りとなりましたが、2台の大型クレーンで更なる効率UPを目指します。



【2台のクレーンが同時に石を吊り上げている様子】

作成：丸亀市教育委員会 文化財保存活用課
丸亀城管理室 Tel.0877-23-2107